

=担任として、「ともに学ぶ」の思い出=
運動会の「フレイフレー」が、最初の言葉だった
障がいのある子とない子と、共に貴重な学びとなった

『LIP』11月号に載った『一年生のこうちゃん』を読んで、昔のことを思い出しました。

私が初めて担任した障がいのある生徒は、就学時に「養護学校」を拒否して、就学猶予になりました。地域の学校に何度も足を運び、見てやろうという先生がいて翌年受け入れられたそうです。中学3年まで9年間の義務教育を地域の学校で過ごしました。

小学校に入った当初はスピーチクリニックへ通っても言葉がなかったそうです。小学校に入学して、たくさんの子たちと過ごす中で運動会の「フレイフレー」、担任の先生を「ねえねえ」と呼んだのが最初の意味のある言葉だったとか。

フェニルケトン尿症でしたが、この障がいを持つのは最後の世代で、直後から出生時に処置できるようになり、もうこの障がいを持つ子はいないと聞きました。

中学3年生で私が担任したのですが、ホームルームの時間に、その子が「ぼく、おもちゃ違います。人間です。」と叫んだことがありました。周りの生徒も私も彼にたくさんのことを教えられました。

当時は、「障がい児も普通高校へ」という運動が始まったところで、みんなと一緒に歩いて通える公立高校を2年間、受験しました。志望者の多い地域の普通高校には当然のように受け入れられず、その後、「養護学校」高等部に進みました。

現在50代後半ですが、元気で仕事をしています。

今、大阪で取り組まれてきたともに学ぶ教育がどんどん壊されていくようで何とかしなければと思います。

(黒田静代)

- 🍎 運動会の「フレイフレー」が、
最初の言葉だった
- 🍎 天国への階段(13) さあて、今晚の献立は？
- 🍎 STEMz マンガ文庫 蔵書紹介
空を見上げたくなるマンガ！
- 🍎 「ともに学ぶ」教育の意義と課題を交流
- 🍎 同志募集 !! 奥能登福祉農園 (5)
- 🍎 今月の五行歌
- 🍎 なんちゃって農業女子(笑) 20
- 🍎 秀作エッセイ 「釣りする心」
- 🍎 イベント紹介/会計報告

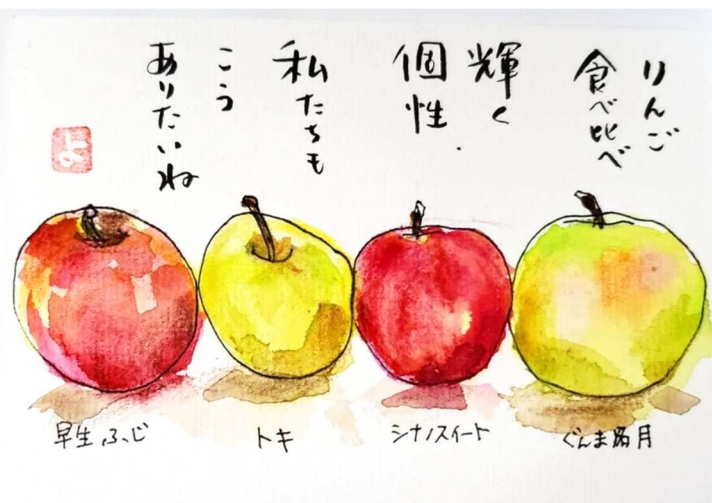
「LIP編集局」

<https://love-dugong.net/lip/>

連絡先

メールアドレス: lip@love-dugong.net

TEL: 070-5653-6913 (18時以降)



「天国への階段」(十三) 鶴島緋沙子

さあて、今晚の献立は？

新年二〇二三年が明けた。

一九三四年生まれの私は、目の前に九十歳の大台が待っている。九十年もよくぞと、我ながら驚くばかり。

人生百歳時代と言われる昨今、珍しくないのは、あちらにもこちらにも白髪や杖と同僚のづ仁の散歩姿を見かけるからだ。この年月、この体力を保持する為に何度、食事をし、何度眠ってきたことだろう。

第二次大戦中、田舎に親戚を持たない私は、二十人ほどの友人と、岡山の山中のお寺に疎開させられた。もちろんそれは、政府の方針だった。

夕方になると、皆で大阪の方角を見ながら涙を流す。引率して共に生活している、今から思えばうら若い女の先生も共にしょんぼりと、横に座っていた。

祖母と父母、姉との家族の中で甘やかされてきた今までの私がもろに出て、クラス一番の泣き虫だった。それを見かねて父母が、皆より一足早く迎えに来たのを覚えている。

そんな世の中が敗戦で一変。近くにあった映画館で次々に上映されるア

メリカのホームドラマの映画。すでに電気洗濯機までも備えた明るい雰囲気にとれだけ憧れたことか。

終戦直前に、西宮の実家が空襲で焼け、世の中が百八十度転換する中、私は西宮女学校が名前を変え男女共学になった西宮市立高校の三年生になっていた。

そんな中、戦時下では話題にも出なかった野球というスポーツが、甲子園という大きな球場を持つ西宮で毎夏開催されるようになり、全国から勝ち抜いてきた高校が参加し、今では、国民的行事とも言えるような人気も獲得している。その開会式には、各地方から勝ち抜いてきた高校が、校名を書いた看板を先頭に、誇らしげに何万という大観衆を前にして歩くのである。その看板の持ち手が、地元

西宮高校の女生徒というわけで、当時は、背も高く学習成績も良い生徒が選ばれ、私もその一人として、これもたまたま大阪代表の八尾高校の看板を持ち、兵庫代表の芦屋高校との優勝戦まで緊張の日々だった。その私の面影の「お」の字もない今の私の姿。

曲がった腰や、丸くなった背中を伸ばしなから鏡をのぞくと、そこには、縦横無尽にたたみ込まれた皺が、あざ笑うようにこちらを向いている。

え！ 誰？

なんて言うのはよそう。

総理大臣だって、どんな資産家だって、どんな芸術家だって、何時かは老いて皆いなくなるのだから。生あるものの、これが宿命なのだ。だったら、生きるものの幸せて何？ そうだ！ “食べる事”なんだ。考えた末、行き着いた結論はこれ。

さあて、今晚の献立は？



鶴島緋沙子さんは、山田洋次監督の映画「学校III」の原作となった「トミーの夕陽」(つげ書房新社刊)などの作品で知られる枚方市在住の作家。「大阪府高齢者大学校エッセー文学科」「大阪府民カレッジひらかた校」等講師。『トミーの夕陽』がまた昇る『私の中の瀬戸内寂聴』『もぐらの目』など。「自閉症」の息子さんの母親であり、「枚方自閉症児(者)親の会」の元代表。

STEMz マンガ文庫 蔵書紹介

空を見上げたくなるマンガ！

人間の脳は、楽しくもないのに笑う表情をつくると、笑う筋肉を使うことで脳が笑っていると勘違いするらしいですよ。嫌いとか苦手とかネガティブワードも同様で、相手に言った言葉でも自分に言っていると勘違いして、相手に言ったつもりなのに自分が自分をけなしていることになるそうです。そう聞くとですね、嘘かホントかは置いといて、ネガティブな声掛けはしない方が身のためだなと思うわけです。

寒いと夜の空が澄んで見えて、月や星が綺麗に見えませんか？今回は、寒いけど外に出ると空を見上げたくなるマンガを紹介します。え？だって、空を見上げるとなんか気分も上向きになる気がするでしょ(笑)

『ち。』-地球の運動について-

著者：魚豊 全8巻 蔵書8巻 (電子)



ガリレオが生まれるずっと前。地動説を信じて命を賭けて研究した“主観的な熱中”の尊さと危うさを描いた物語。地動説と天動説という紀元前から続く歴史的な思想対立を描いた作品で、地動説を理論的に、合理的に信じるものが密かに真理を求めて研究を重ね、ガリレオに続く思想を固めていく様子が描かれています。

ガリレオの宗教裁判の史実は、あまり歴史に詳しくない人でも、なんとなく頭の片隅にある有名なエピソードではないでしょうか。地動説は何もガリレオ一人で作り上げた理論ではなく、古くからまことしやかに語られ、研究されてきたテーマ。宗教信仰が合理性や理論をねじ曲げてしまうことは良くあること。強力なマジョリティに隠れて密かに研究を進める地動説信仰者が、身の危険を犯してまで不思議を解明したいという欲望に勝てない様はトコトン人間臭い。傍から見ると狂っている。だけど、そうまでして熱中できるものがある人は外野がなんと言おうと幸せなのだと思うのです。

宇宙兄弟

著者：小山宙哉 既刊41巻 蔵書41巻(電子)

少年時代、宇宙に行くことを夢見た兄・ムッタと弟・ヒビト。弟が夢を叶えて月に向かう時、兄は弟の悪口に激昂し、上司に頭突きをして会社をクビになり無職だった。ムッタは幼い頃に弟と夢を誓い合った気持ちを思い出し、再び宇宙飛行士への夢を追いかけ始めます。

なりたい！と思ってなれるような簡単なものではない宇宙飛行士。その選抜試験や訓練、宇宙飛行士としての資質を問われる場面はどれもリアリティに溢れ、ドラマや映画の世界でしか見ることがない宇宙飛行士が身近に感じられる作品です！



かつて夢を見ていた大人たちへ。いつ自分の限界を自分で決めてしまったのだろう。人生半分も過ぎると、やらなかった後悔と、やれる方法を考えなかった後悔と、世間に流されてしまった後悔がどっと押し寄せてくる。無駄なことなんてなかった。だけど、もっと違う世界に行けたはずなんて思うのは都合のいい思い込みだ。

今からでも遅くない、さすがに宇宙飛行士にはならないだろうけど、今ここで自分の足で立っていられているのなら、夢をもう一度みるなんて容易いものなんだ。夢を見られない大人を見て子どもは夢を見続けられるのだろうか。若者世代にチャンスを残したいなら、若者よりは少し生きやすい大人にこそ夢に向かう姿勢が必要なんじゃないかなと思うのです。

(みんなでつくる学童STEMs そふえ)
[STEMz マンガ文庫]で検索！

〈大阪教育研 Café 報告〉 「ともに学ぶ」教育の意義と課題を交流

「子どもに『教育への権利』を！大阪教育研究会」は、12月3日（土）、『「ともに学び、ともに生きる」教育実践に学び、考える～国連『障がい者権利委員会日本審査』勧告の内容と意義について～』をテーマとする講演学習会（教育研 Café）を開催しました。会場は、大阪市立難波市民学習センター。また、zoom を使いオンラインでも参加できるようにしました。

最初に、大阪市小学校教員の S さんが、「ともに学び、ともに育つ」教育の意義、一方でそれに向き合っていくことの難しさを報告しました。

《「原学級保障」や「しんどい子」を中心におく学級づくりは、子どもとの信頼関係の延長線にある。担任、支援担当として3年間関わってきた2人の児童を例に現状を紹介する。支援学級への「抽出」をせず原学級で過ごす中で、2人を手伝う立場の子どもたちが、2人が始めた鬼ごっこに次々と加わっていき一緒に遊ぶ関係になっている。しかし、「問題解決型」等の学習活動で2人に困難が生じ、「抽出」の可否には悩む。保護者・同僚と相談しながら原学級での学びを継続してきた。学校では2人を教職員全員で見ており、地域の人々も知っている。「ともに学び、生きる」ことは簡単ではないし、何が正しいか答えは見えない。ただ、2人の将来に「ともに生きる」環境が育まれることに意義を感じる。》

次に、濱元伸彦さん（関西学院大学准教授）による「国連勧告とインクルーシブ教育に向けた今後の課題」をテーマの講演がありました。

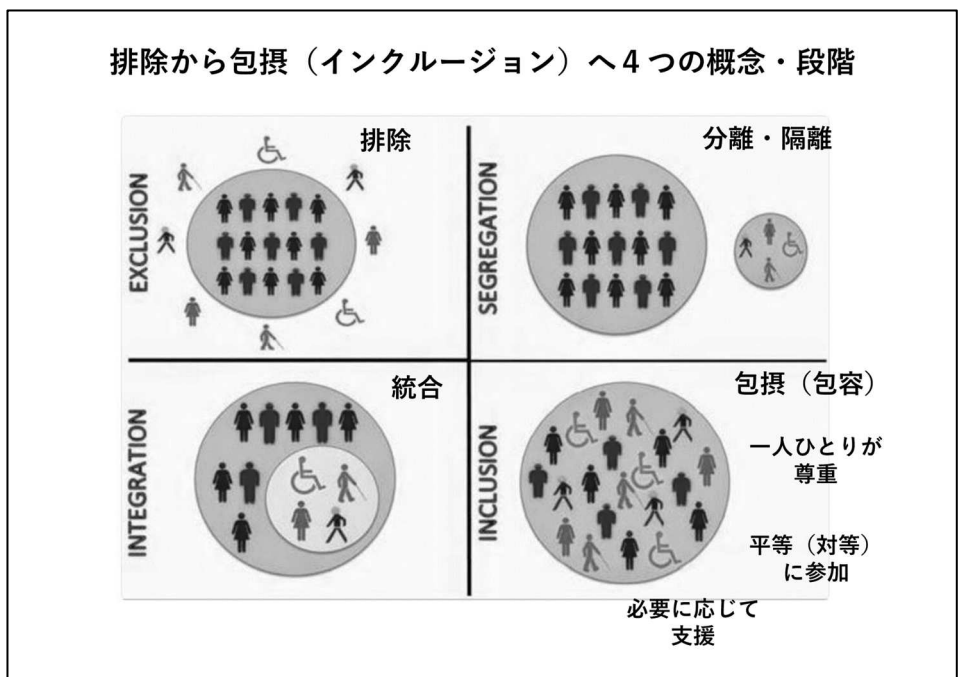
《大阪では「ともに学び、ともに育つ」教育が進められてきたが、実践が進む市町村においてさえ、障がい者権利条約とは何なのかをきちんと理解して発展させる段階には

至っていない。社会には多様な人がいて当然なのに、分離教育によって、障がい者と健常者が出会わずに育つ。図はインクルージョンへの4つの段階を示している。特別支援学校は、この概念上では SEGREGATION（分離・隔離）に当たる。インクルージョンは、時間的・空間的に同じものを共有しながら、必要とする支援を受けられて、お互いの多様性を尊重されながら、対等に参加できる状態だ。

文科省4・27通知（支援学級在籍児童の原学級での授業時間を制限）は、障がいのある子どもの分離を促進し固定化するものだ。大阪府の多くの自治体がインクルーシブ教育を受ける権利を制限しようとしている。》

講演・報告後、教職員や保護者、元教員などから多くの経験や意見が交わされました。より弱いものに攻撃が向けられる差別的な社会的文化的構造の問題も指摘されました。文科省通知が突然学校に下ろされ、実施を強制されることや競争的な現状への怒りの声が上がりました。

大阪教育研会員 井前弘幸



同志募集 !! 奥能登福祉農園（5） タイムトンネルの向こうの異空間

枚方市立殿山第二小学校→枚方三中→四條畷高校出身、学童保育の指導員と三児の子育てを経て、現在、石川県輪島市の山村に住んでいる、
鴻 章子 64歳です。（旧姓広瀬）

輪島に移住して12年たちました。冬は深い雪国になるこの地に住み始めたころは、不安もいっぱいでした。凍結してツルツルになった坂道、そこを運転するのも、怖いものです。でも、銀世界の美しさ！マキストーブの楽しさ！味わいっぱいの毎日です。ひと昔前までは、冬期に一ヶ月とか三ヶ月とか、雪に閉ざされて、孤立状態になるのは、珍しくもない普通のことでした。父親が出稼ぎに都会に出て、残された家族は、自宅に備蓄したお米と豆と塩漬けの野菜・魚を食べていました。ニワトリも飼ってました。買い物に行く必要もなかったのです。冬期間、ひいじいちゃんたちは、ワラで、わらぞうりやワラの長靴をつくったり、ムシロ（わらのカーペットですね）や炭俵を編んだりもしていたそうです。炭をつくる炭焼きも、どちらかという冬の仕事でした。



でみないと、味わえない世界があります。

私たち夫婦は、本業の建築構造設計とパース作成をしながら、春は、田おこしから始まって、田植え（田んぼの泥の中に素足で入って、一本一本手植えします）・草刈り・イノシシ対策の柵の立て直し・稲刈り（ざくざくと手刈り）・天日干し（これがまた、いい匂い！）…というサイクルを毎年重ねてきました。美しい昆虫に出逢い、小鳥のさえずりを聞きながら、多様で複雑で、繊細で、うつくしい大自然の壮大さを感じながら、盛りだくさんの毎日でした。いろんなかたが、いっしょに農作業をしてくれました。近所にできた福祉施設の方も、去年は、週2回、来訪してくれました

ただ、こんな山奥の自然体験の豊かさを、ほんとうに必要としているのは、都会や枚方のような普通の住宅地に住んでいる人・青少年なんじゃないかな……

それで、LIPの読者のみなさまに、わたしからのプレゼントを提案させていただきます。

築150年の古民家での防虫対策の完備した小さなテント泊と、簡素な山菜料理など、無料で、プレゼントさせていただきます。

遠い！ですよね。金沢からバスで約2時間半、世界農業遺産の千枚田の近くです。現代の日本人にとって、こういう山村体験が必要でないかと、共感してくださる方がいらっしゃったら、ぜひ、こちらまで、メール下さい。お気軽に、のんびりと遊びに来てください。

メールアドレス bishagoakiko@gmail.com
文／鴻 章子（旧姓 広瀬）



冬ならではの危険も、あります。雪の重みで倒木があったり、停電が続いたり、ガソリンで自家発電したり、洗濯機の中が大きな氷になってしまったり……ハプニングが多い。ただ、そのひとつひとつのハプニングを乗り越える中に、大きな感動があるのです。不謹慎かもしれませんが、ハプニングに一生懸命対応する中に、人生の感激がある……

野うさぎの足跡を見つけるのも、冬が多いです。毎日が、アドベンチャー！ しばらく住ん

LIPが選ぶ
今月の五行歌

透きとおった

裸のいのち

米粒ほどの

クラゲの子も

クラゲのかたち

さなぎ

ちえこ

勝てば称賛

負ければ誹謗中傷

監督は

並の人ではない

鉄の心臓持ち

素晴らしい冬晴れだ!

天高く 凧も

血糖値も血圧も

物価も

上がる!上がる!

いぶやん

五行歌(ごぎょうか)とは……五行で書く短い詩。字数や季語などの制限はなく、自分のおもったこと、感じたことを、そのまま言葉にして書きます。枚方では、五行歌ひらかた歌会が、8月を除き月一度歌会を行っています。

(連絡先: akie.toyotaka@gmail.com
または 090-5893-5635・豊高)

No.20

なんちゃって農業女子(笑)

あけましておめでとうございます。新年号で、しかも今回の投稿がめでたく節目の回数「20回目」ですね。たいした知識でもないことばかりをお話する私は何者??と思われるかもしれませんがね。(笑) 改めて自己紹介を兼ねて、我が家の畑は、3年ほど前に知り合いから借り受け自宅の近所(徒歩8分)の枚方市立〇〇中学校の南側の、周りには田んぼや貸農園もある長閑な場所で、有機自然農(人は「ほったらかし農園」と呼ぶ)で野菜の栽培をしております。

前回お話したハヤトウリはなぜか毎年(3年)大豊作ですが、その他の野菜はポチポチの収穫です。それはそれで、自己満足の連続で、一人楽しんで畑と向き合っています。

職場は、京田辺で障害のある利用者様と有機無農薬で野菜栽培して、施設に併設したカフェ(3件)や八幡の「旬の駅」などに出荷しています。雨の日や暑い日寒い日などは、野菜の種を使った「ブローチ作り」など行っています。職場の畑では我が家の畑の様にはほったらかしで



写真②

はなく、植え付けから収穫までファームスタッフや施設職員と共に、切磋琢磨しながら日々作業しています。職場の畑の話は昨年も時々しましたね。今年も楽しい仕事の様子をご報告したいと思います。

昨年は・・仕事とは別にチャレンジしたことがありました。それが、写真①のしめ縄です。無農薬で古代米などの米作りをしておられる方々と知り合えて、稲刈り(手刈り)に挑戦しました。その時の稲穂を分けていただいたものを、小さなお正月用のしめ縄にしてみたり(写真②)、クリスマスリースを改良して作ったりリースにも使ってみました。

古代米の栽培そのものは普通の米作りと同じですが、無農薬栽培では、草取りが必要です。私は稲刈りしか参加してないのでその苦勞を味わってなくて・・・今年は、出来たら苗作りから参加させてもらって、途中の草抜きも頑張ってみようかな??・・・つづく



写真①

釣りする心

湯浅 均

最近、孫がせがむので一緒に釣りに行くことが多い。釣りは若い時から随分行った。海釣りも溪流釣りも一時期はまった事があった。本当に釣りは道楽の行き止まりとよく言ったものだ。

最近、ご無沙汰していたが、孫を喜ばせてやろうと、安全面を考慮して海釣り公園に通いだした。

最初は全く釣れなかったにもかかわらず、楽しかったのかまた連れて行ってくれと言うから、次には地合いをよく考えて、釣れる確率の高い日と時間に行ったのでなんとかボーズを免れた。少ない釣果でも孫は大喜びだった。

釣りという行為を考えると、なにも手間暇かけなくても、魚はスーパーに行けば食べやすいように調理して売っている。金さえあれば物は手に入る。お金で買えないものはないと錯覚する。しかし、自分で釣って食べておいしくいただく。こちらのほうが上等な感じがしてかっこいい。命を頂いているという実感が湧く。私たちは例外なく、殺生しているのだから。

釣った魚を、クーラーボックスに入れる前に行うのが「締め」と「血抜き」である。

これは釣った魚をおいしくいただくために、鮮度を保つための方法である。

まずは魚のこめかみにナイフを突き刺して、一瞬で殺し、エラの付け根の上部と、シッポの付け根にある血管も断ち切り、血を抜く方法が一般的である。

孫も最初は不思議そうに見ていたが、きちんと説明すると納得してくれた。

「魚は刺身の姿で泳いでいる」というような、嘘のような認識をしている子が増えているという。命あるものを相手にすることにより、命の尊さを実感することが出来るのだ。

魚を釣って食べる、そのことにより、食べ物に対する考え方に良い影響を与えてくれるはずだ。

若い時にグループで船釣りに行った時のこと。タイやハマチ、サバがそれなりに釣れ、喜んで船着き場へ帰ってきた。そして堤防で船のイケスから取り出した魚を、船頭さんが「血抜き」をしてメンバーに配ってくれた。沢山の魚で、瞬く間に堤防は血の海と化した。それを見た仲間の一人が卒倒して運ばれ、彼はその後釣りには参加しなくなった。彼は今までスーパーで売られている魚しか見ていなかったのだろうか。その後魚を食べなくなるとは聞いていないが……。

子供の頃に釣り場に連れて行ってもらった

ことは大人になっても覚えていっているものであって、その後の感受性に大きく影響を及ぼし、その時の風景とともに記憶の中に刻まれると思う。

人は生き物を殺し、食べている。考え方によっては残酷な生き物だ。そういう事実を普段、人間は見ないようにしている。

例えば産卵鶏から産まれる雛の約半分は、当然ながらオスだが、育ちが遅く肉質も良くないという理由で、オスは直ちに殺処分される。その方法はシュレッダー状の機械で生きたまますりつぶされ、そのあと動物の餌となるのが一般的だ。

そんな人間の矛盾を詠ったのが金子みすゞの詩にある。

「朝焼け小焼だ、大漁だ

大羽鰯の 大漁だ。

浜は祭りの ようだけど、

海のなかでは 何万の、

鰯のとむらい するだろう。」

釣りはそういうことを感じさせ、命のありがたさを再認識させてくれるのだ。

「大阪府高齢者大学」文章講座卒業生でつくろ「鶴島学校」の湯浅 均さんの作品です。講師をつとめる鶴島緋沙子さんの推奨作品。

イベント・サークル・ボランティア情報

出会いつながろう in 枚方
中宮チャンゴの会 20周年記念ライブ

- ◆日時：2月19日(日) 13:30開演(13:00開場)
(16時終了予定)
- ◆場所：枚方市総合文化芸術センター別館 メセナホール
(旧メセナひらかた会館)
- ◆入場無料
- ◆出演団体：フラ・ハラウ・オガサハラ
ひらのキジムナー 日本民謡三津博会 中宮チャンゴの会
- ◆連絡先：090-6328-4006 (中宮チャンゴの会佐藤)
- 会場の都合により、事前に連絡いただけるとありがたいです。
- ◆主催：中宮チャンゴの会

【枚方自閉症児(者)親の会】

今年4月の文部科学省の特別支援学級の通知以来、枚方の発達障害児は、普通に教育を受ける権利をおびやかされています。保護者の混乱も落ち着くことはありません。会員以外の方も自分の思いを話していただければ、これからの生き方のヒントを得られると思っています。どんな立場の方もフリートークで活発に話せる会です。ぜひご参加下さい。

- ◆日時：1月11日(水) 10:00~12:00
2月1日(水) 10:00~12:00
- ◆場所：ラポールひらかた 4階共用ルーム
- ※連絡先 松崎 072-845-3014 さんなみ 072-868-9929

第7回寝屋川ハート・アート展

- 日時 2月19日(日)14時~2月21日(火) 17時まで
- 会場 寝屋川市立 市民ギャラリー2
- 主催および連絡先
ClubE&T、ハート・アート展実行委員会
<https://neyagawaheart-art.jimdofree.com/>
- 参加費用：無料

今年も市民ギャラリーにて「寝屋川ハート・アート展」を開催いたします。『冬物語♥アートに夢になるのは貴方だ』という熱いテーマにたくさんの作品を展示いたします。ぜひご来場、お待ちしております。

カウンセラー入門講座 ~講座体験&受講説明会~

心の支援についての基本的な取り組みを学べます。

- ◆日時：1月18日(水) 10:00~11:30
1月18日(水) 19:00~20:30
- ◆場所：交野市立 青年の家(2階206号室)
交野市私部2-29-1
- ◆日時：1月25日(水) 10:00~11:30
1月25日(水) 19:00~20:30
- ◆場所：サブリ村野(2階201号室) 枚方市村野西町5-1
- ◆参加費：無料 ◆定員：各15名
- ◆申込・問合せ先：NPO法人京阪総合カウンセリング
TEL 072-814-7140 メール jimu@npo-ksc.net
<http://www.npo-ksc.net>

【参加者募集】放課後クラブ「チャレンジ・キッズ」

子どものことで、迷ったときに相談したり、悩みを打ち明けられる場があればいいなあ……。そんな思いで集っています。支援者を交えて、気楽におしゃべり情報交換しませんか。

- ◆日時：2月10日(金)
10:30~15:00 (遅刻早退OK、出入り自由)
- ◆場所：ラポールひらかた2階集会室
- ◆参加費：無料
- ◆問合せ：c-k@love-dugong.net または、
090-5893-5635 (16時以降 豊高)

下記ブログにて、随時情報を掲載しています。
<https://ameblo.jp/challengekids81573/>
(「チャレンジ・キッズ」「アメブロ」で検索してください)



応援ありがとうございます♪

LIP 応援団

渡辺洋一郎さん

LIP 会計報告 (前号以降)

金額(円)	内容
42,122	前号から繰り越し
2,000	寄付
▼560	郵送代
▼500	ロッカー代
▼3,990	12月号印刷代
39,072	計(次号へ繰り越し)

STOP WAR

■4頁の教育研 Café の記事を送っていただいた担当の方が、メールのやり取りのなかで、ご自身の「共に学ぶ」の思い出を書いてくださいました。それを読んで、「共に学ぶ」ことは本当に大切なのだと改めて思いました。教育とは？ 学校で子どもたちに学んでもらいたいと私たちが望むのは、知識だけではない、人として、自分と異なる隣人とのように関係をつ結びつながらいていけるのか、その術を体得していく場なのではないか？など、いろいろなことを思いました。ぜひこれを紙面で伝えさせてくださいとお願いし、快諾いただいて紙面に載せることができ、嬉しく思っています。(表紙の記事)

さて、大阪市議会では、インクルーシブ教育に関する市民からの陳情が議論され、自民党も、公明党も、原則普通学級で「共に学ぶ」のが大阪の教育だから、普通学級のなかで個別支援ニーズに応えられる体制を充実すべし、との見解を述べたそうです。大阪市教育委員会の答弁を見ると、要するにこれまでやってきたことに大きな方針転換はないということ。フェイスブックの渡邊充佳さんの投稿を読んで、そのようなことを知りました。「大阪の『共に学ぶ』教育の歴史は50年。半世紀の積み重ねは、議員の教育観も変えるのである。議員も子ども時代にそのような環境で育って来た当事者だから、当たり前といえば当たり前なのだが」と渡邊さんは続けて書いています。(A)



枚方コーン

デビューしちゃう？

【ひらつーパートナー・ライト】

月額 5,610円

詳しくはコチラ➡➡



イラスト 表紙：平井由恵